

親鸞さまの

【本文】

他力たりにきの信心うるひとを

うやまひおほきによるべば

すなわちわが親友しんぬぞと

教きょうしゆせそん 主世尊はほめたまふ

【意記】

阿弥陀様の「この阿弥陀を抛り所となさ」との仰せを素直に聞き受ける心を信心といえます。この信心を阿弥陀様から頂いた人は、

み教えを敬う心が大きく、喜ぶ心が多おほい人です。

この信心の人を「我が親友である」と

世に尊ばれるみ教の主 お釈迦様はお褒めになられました。

【私の味わい】

ニホンリスの生態について お話を聞いたことがあります。貯食つまりリスがどのよう  
に餌を保管するかこれを調査したのです。発信機を付けた百個のオングルミの実を用  
いて、その行動を調べたところ、次のようなことが明らかになつたそうです。三十五個は  
そのリスによつて直接食られ、六十個は貯食に回されたそうです。平均二缶以内の  
色々な所に隠されたわけですが、そのうち九割近くは当事者によつて忘れられた上  
他のリスに食られていました。残る一割は、その存在さえ忘れられてそのままになるの  
ですが、その実が今度は春になつてあちこちで芽吹くのです、と聞きました。

リスが知っている、覚えているのは、自然のごく一部のことでしょう。また、リスの自分  
の命を永らえる為に集めた物が、やがて他の生命の、自然の一部となるということ。

私はこの話から、私を育てているものが常に私より遥かに大きい、という感慨を深く  
しました。育みしものの全体像を私は知り尽くすことは出来ない。いやそれ以前に  
大切なことさえ忘れてしまう。自らの言行の奥底には必ず自己本位があり、自分の都  
合で動き、その結果に自分で、わずら煩い悩んでいく煩惱。放っておけば、終始自業自得  
で終わらざるをえないこの私を、安らかに養い、育まんとされるお方がいらしゃる。その  
お方こそが阿弥陀様なのだ、改めて知らせていただいたことです。

知る事も、覚える事も極めて限りのある私、この私を育てくださることを感謝し、

喜び、お念仏する人は仏様ととても近い人なのだ、と聖人がお示しです。(悠水